ChatGPT

日本における商用特許SDIサービスの現状と今後

2025–2026年の生成AI統合を中心としたDeep Research報告書

Word報告書

ご指定の形式で、最終成果物を **Word（.docx）** にまとめました。

Word報告書をダウンロード

本文の引用は **[1]、[2]…** の番号形式とし、文末に **42件の詳細参考文献一覧**を収録しています。ベンダー比較表、定量ケーススタディ、Mermaidアーキテクチャ図、Critical Recall評価設計、RAG/Embedding/LLM運用チェックリスト、RFP評価項目までWord内に収録しています。

調査で明確になった重要点

今回、各社の最新の一次情報を突き合わせた結果、最初に修正しておくべき点があります。**「2025〜2026年に日本の主要特許DBが一斉に、生成AIによる要約・関連度判定・検索式生成をSDIの自動フローへ組み込んだ」と一括して表現するのは正確ではありません。** 実際には、生成AIを新着SDIのトリガーと直接接続している製品、既存SDIと生成AI機能を同じプラットフォーム上に併存させている製品、従来型の教師ありAI分類を中核に据える製品が並存しています。 [1]

なかでも**サマリア**は、検索式に合致した特許を日次・週次・月次で自動取得し、その都度、登録した生成AIの一括指示を自動実行する仕組みを2026年5月に公開しており、今回調べた国内サービスの中では「SDI→生成AI処理」の接続が最も明示的です。さらに同年9月にはMCPに対応し、Claude、ChatGPT、Copilot、Gemini Enterprise等から特許データベースを検索・取得・解析する構成を公開しました。 [2]

一方、**PatentSQUARE**は、2026年10月時点の公式情報では「AI検索」と「AI自動分類」を主要AI機能として掲げており、生成AIを前面に出した製品設計ではありません。しかしSDIでは、AIによるノイズ除去・仮評価、人による確認・修正、評価結果の蓄積・再学習というHuman-in-the-loopが成熟しています。カネカの公開事例では、年間1,800時間の調査工数削減を見込むとされています。 [3]

Shareresearchは2026年10月5日に生成AIによる「AI要約」「AI検索」を提供開始し、日立の社内検証では1件当たりの確認時間を約5分から約30秒へ、精読対象を100件から20件へ減らしたと報告しています。ただし公開資料上では、SDIで到着した新着文献すべてについて生成AIが自動判定・自動除外するところまで一体化したとは明示されていません。 [4]

JP-NET/NewCSSも、2025年末の評価版を経て2026年10月に生成AIオプションを本格提供し、AI検索式作成、AI辞書、AI要約、構成要素分析などを既存の検索業務へ追加しました。ただし、従来のSDIチェッカーによる定期検索と、生成AIによる査読が完全自動で連動するかは、公開資料だけでは確認できないため、本報告書ではこの二つを分けて評価しています。

海外勢では、**Clarivate Derwent Patent Monitor**が、アラート／データフィードからAI Threat Analysis、製品特徴と具体的claimを結び付ける説明、担当者への割当、コメント、ハイライト、履歴管理まで一体化しており、生成AI時代のSDIに必要な「根拠追跡＋Human-in-the-loop＋監査」の設計を明確にしています。 [5]

Questel Sophiaは自然言語からBoolean検索式を生成できますが、公式ヘルプ自身がSophia Queryを「網羅的検索」よりも「focused」な検索を作るものとして説明しています。またOrbitではsimilarity searchなど一部AI検索をそのままアラート化できない制約があります。そのため、FTO等の高Recall SDIでは、生成AIに検索を全面委任するより、生成されたBoolean式を専門家が検証し、保存検索へ落とし込む方が安全です。 6

報告書で採用した評価軸

単に「生成AIを搭載しているか」ではなく、各ベンダーについて次の観点を横並びにしました。

生成AI提供開始時期、SDIの実際のワークフロー、要約・関連度判定・検索式生成、Embedding/RAG/LLM、原典・claim・段落への根拠追跡、Recall/Precision管理、Human-in-the-loop、MCP/API、海外DB、公開料金、定量導入事例、誤除外・監査・ログ上のリスク、今後のロードマップを比較しています。

特に重視したのが、通常のAccuracyではなく **Critical Recall（重大文献再現率）** です。SDIでは、1,000件中900件を正しく処理してAccuracy 90%であっても、誤った100件の中に事業継続を左右する1件の特許が含まれていれば、実務上は成功とはいえません。SDI向け教師ありAIの研究でもRecall・Precisionを分けて評価する必要性が示されており、生成AIとの連携研究でも「検索→AI判定→適合性フィードバック」という多段構成が検討されています。 7

そのためWord版では、**Critical Recall、Critical False Negative件数、Recall@k、Precision@k、Number Needed to Review、査読工数削減率、Evidence Coverage、Abstention Rate、モデル更新前後のDrift**を測る具体的な評価案を収録しました。

技術面での結論

今後の特許SDIで有力なのは、LLM単独型ではなく、次のような多層アーキテクチャです。

高RecallのBoolean/FI/Fターム/IPC/CPC検索
→ ファミリー・法的状態・重複処理
→ Embedding／教師あり分類による再ランキング
→ LLM/RAGによる要約・関連度判定・理由生成
→ claim／原典段落による根拠確認
→ リスク帯別Human-in-the-loop
→ 人の最終評価を次回の教師データへ還流

という構成です。

これはLLM時代にも特許検索・分類が独立した技術課題として残っているという研究動向とも整合します。2025年の特許分析サーベイはNLP・LLMの用途を検索・分類等にわたり体系的に整理しており、別の研究では、LLMが詳細説明から生成した要約を分類入力に使うことで、JPO-70kにおけるmicro-F1が元の抄録利用時より約3ポイント改善したと報告されています。 8

また、AIを「低関連文献の削除装置」ではなく**順位付け装置**として使う考え方も重要です。Amplifiedは公式に、AIが結果を並べ替える一方で文献を勝手に除外しない設計を説明しており、誤除外が高コストとなるSDIには示唆的なアプローチです。 9

今後の見通し

本調査では、2026〜2027年にはAI要約・自然言語検索・検索式生成が商用DBの一般的機能になり、2027〜2028年には「新着取得→AI判定→根拠生成→担当者別配信→評価履歴蓄積」の自動化が進むと予測しました。

その次の段階を強く示しているのがMCP/APIです。サマリアはすでにMCPによる外部AIとの接続を提供し、PatSnapもMCP Serverから2億1,000万件超の特許レコードへAIクライアントがアクセスできる仕組みを公開しています。これは将来、企業の社内AIが製品仕様書、研究テーマ、過去のSDI評価と新着特許を直接照合する方向へ進む初期的なシグナルです。 10

したがって3〜5年後のSDIは、単なる **Selective Dissemination of Information** から、競合・技術・claim・legal status・自社製品との関係を継続的に更新する **Continuous Patent Intelligence / Continuous IP Risk Monitoring** に近づく可能性が高い、と結論づけています。

その際に最も価値を持つ企業資産は、汎用LLM自体よりも、**過去の重要／不要判定、検索式改訂履歴、社内taxonomy、false-negative事例、claim対比履歴、担当者の確定評価**です。これらを教師データ兼監査証跡として蓄積できる企業ほど、生成AIを単なる要約ツールではなく、自社固有の知財インテリジェンス基盤へ転換しやすくなります。

完成版Word報告書（.docx）をダウンロード

---

1 4 特許情報提供サービス「Shareresearch」に生成AIを活用した新機能「AI要約」「AI検索」を追加し、研究開発部門の特許調査の効率化と特許情報の活用促進を支援：ニュースリリース＆トピックス：公共ITソリューション：日立
https://www.hitachi.co.jp/Div/jkk/press/news/260914.html

2 サマリア内で完結する特許定期監視を実現。定期監視（SDI）機能と検索式による一括指示機能をリリース | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000022.000086119.html

3 特許調査支援サービス「PatentSQUARE」 | Panasonic
https://www.panasonic.com/jp/business/its/patentsquare.html

5 Clarivate Launches Derwent Patent Monitor to Enable Fast and Accurate Decision-making with AI - Clarivate
https://ir.clarivate.com/news-events/press-releases/news-details/2025/Clarivate-Launches-Derwent-Patent-Monitor-to-Enable-Fast-and-Accurate-Decision-making-with-AI/default.aspx

6 Sophia query assistant : Orbit Intelligence
https://intelligence.help.questel.com/en/support/solutions/articles/77000574749

7 情報プロフェッショナルシンポジウム予稿集
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/infopro/2021/0/_contents/-char/ja

8 A Survey on Patent Analysis: From NLP to Multimodal AI - ACL Anthology
https://aclanthology.org/2025.acl-long.419/

9 Amplified - Amplifiedの仕組み
https://www.amplified.ai/ja/how-it-works/

10 生成AIで特許業務を効率化する「サマリア」、MCPに対応。Claude・ChatGPT・Copilot・Gemini Enterpriseからサマリアデータベースへ直接アクセス可能に | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000029.000086119.html